

ガネッシュへのオマージュ

ガネッシュ・デル・ヴェスコボは私たちの最も大切な友人であるが、遠く離れて暮らしているため、ほんの時々しか会うことはできない。しかも彼は、今の世の常の人たちとはかなり異なっているので、メルヘンか、はたまた神話の中の人物のように、つい考えてしまうのである。

そもそもガネッシュというのは、象の顔をした、ヒンドゥーの知恵の神の名で、ヨガの導師から授けられた名前らしい。家名のヴェスコボは司教という意味で、イタリアでも数少ない名だという。

作曲することも、楽器を奏でることも、音楽を聴くことも、彼にとってはすべて自然な、あまりにも自然なことで、示威や衒いとはまるで無縁である。深い充足を伴うその音楽には、草花たちも耳を傾けるに違いない。

観光客には知られぬ、イタリア中部の美しき農村・ロンザーノに生まれ育った彼は、外出するときにはいつも、彼の姿を見つけて喜び舞い降りてくる鵲を肩に載せて歩き、夏には蛍でいっぱいになったという、広々とした草原で、ギターを奏でて日を過ごしたという。

私たちは、彼の音楽にみられるような豊かさをほかでは知らないし、彼のように音楽によって、自らの人生を静かな歓びに浸した人を、他に知らない。

藤家溪子
山下和仁